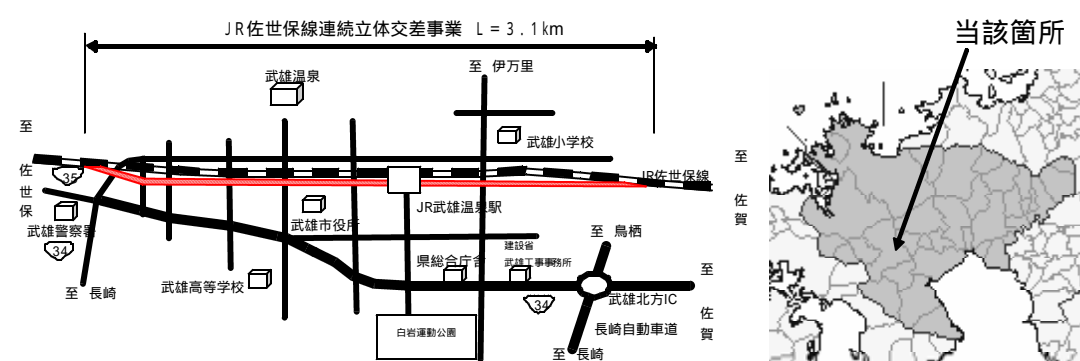


再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：本省 都市・地域整備局 街路課
担当課長名：松谷春敏

事業名		JR佐世保線連続立体交差事業(武雄温泉駅付近)		事業区分	街路	事業主体	佐賀県
起終点		自：佐賀県武雄市朝日町大字甘久字田崎 至：佐賀県武雄市武雄町大字武雄字六ノ坪				延長	3.1 km
事業概要：武雄市の中心市街地は鉄道により南北に分断されているため、鉄道の高架化を図ることにより、踏切に起因する交通渋滞や交通事故を解消し、さらに武雄北部土地画整理事業と一体となって駅周辺の都市基盤を再構築することで都市機能を高め、市街地の活性化を図る。							
H10年度事業化		H9年度都市計画決定 (H - 年度変更)		H10年度用地着手		H13年度工事着手	
全体事業費		100 億円		業進捗率		74.6%	
踏切遮断交通量		4万台時/日					
費用対効果分析結果		B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 6.0		総費用 (残事業)/(事業全体) 29/138億円 事業費：28/138億円 維持管理費：0.14/0.14億円		総便益 (残事業)/(事業全体) 177/170億円 移動時間短縮便益：172/165億円 走行経費減少便益：3.7/3.7億円 交通事故減少便益：1.5/1.5億円	
						基準年 平成18年	
事業の効果等：中心市街地の活性化、都市圏の交通円滑化の推進に寄与する、鉄道により一体的発展が阻害されている地区を解消する（外13項目に該当）							
関係する地方公共団体等の意見：武雄市施行の土地画整理事業と一体となった早期完成が望まれている。							
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等：武雄市においては、武雄温泉駅南側の国道34号バイパスの開通に伴い、沿道開発が行われ、急速に市街化が進んできた。また、平成11年には県立宇宙科学館がオープンしており、武雄市を訪れる観光客も連立事業着手時期と比較すると約24%増加している。							
事業の進捗状況、残事業の内容等：平成18年度末での進捗率は、74.6%である。用地補償については完了し、平成19年度末の鉄道の高架への切り替えに向け駅舎工事などを実施している。							
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等：高架への切り替え後、仮駅舎・旧線路の撤去、駅部高架工事の促進などを行い平成21年度の事業完了を目指す。							
施設の構造や工法の変更等：コンクリート2次製品・リサイクル材の積極的活用、建設副産物を有効利用している。							
対応方針		事業継続					
対応方針決定の理由：鉄道により南北市街地が分断され交通混雑などの著しい都市機能障害が生じている状況は現在も変わらず、事業の必要性・重要性は変わらない。							
事業概要図							
							

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。